

編集後記

今回の特集は“近視コントロール アップデート”。今自分が最も興味を抱いている分野だ。序論にも書いたが、近視は人類が屋外で過ごさなくなった“ライフスタイル病”のひとつと考えられる。自分が長く専門としてきたドライアイも、人類が眼を酷使し、インターネットやパソコン等の VDT 作業の時間を増加させてきたからと考えられる。どちらも同じライフスタイル病としたらそこに相関はないのだろうか。2019 年に慶大の四倉らはドライアイと近視が関係していることを JAMA Ophthalmology に発表した。まだまだ不明の点も多いが、どちらにもかかわる共通パスイが存在する可能性もあり、現在興奮しながら研究を進めている。現代社会の脳と眼で実は同じことが起きていて、その表現形として学童では近視になり、大人ではドライアイ、うつになるという大胆な仮説のもとに研究を続けている。

さて、今回の総説は結城賢弥先生(慶大)による緑内障の生活リスクである。新しい視点から緑内障をみているので、ぜひ一読されたい。通常眼の病気の最終

評価は、視力や視野などのいわゆる視覚系のパラメータで測定されるが、これからビッグデータの時代になれば、視力ばかりでなく、日常生活におけるさまざまなパラメータで評価することができる時代になってくる。というよりも、エンドポイントは既に視覚評価に加えて、クオリティーオブライフ、幸せ、経済性、利便性などに広がっている。著者の結城先生は長年にわたってこれらの日常生活の視点から緑内障を評価しているユニークな研究者である。将来はさらに領域を広げて、眼科学の価値の増大に寄与してもらえたらありがたい。

この 1 月号の編集後記は前年の 12 月 30 日現在で書いているが、2020 年は COVID-19 に振り回された激変の時代であった。本当に大変でしたね。でもごいっしょに生き延びられてよかった。皆様におかれましては健康第一に 2021 年は大きく幸せが躍進する年になりますことをお祈りして、編集後記とさせていただきます。

(坪田一男・記)

編集：富田剛司・坪田一男・後藤 浩・飯田知弘・雑賀司珠也・門之園一明・石川 均
編集顧問：所 敬・小口芳久・臼井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治・三村 治・飯島裕幸

「眼 科」 第 63 巻 第 1 号 1 月号

2021 年 1 月 5 日発行 (毎月 1 回 5 日発行)

定価 3,080 円 (本体 2,800 円 + 税 10%)

年間講読料金

定価 46,310 円 (本体 42,100 円 + 税 10%)

[年間 13 冊 (臨時増刊号を含む) の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03 (3811) 7165 [編集室直通]

Tel 03 (3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。